

再評価調書(再々評価)

事業名	一級河川 梅川河川改修事業				
担当部署	都市整備部河川室河川整備課中小河川G(06-6944-9297)				
事業箇所	大和川合流地点先～河南町山城地先				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	梅川は、昭和55年度に全体計画の認可を受け、順次下流より改修工事を進めているが、現在も、未改修部において流下能力が大きく不足しており、洪水による被害を防止するため、河川改修を進める。			
	内容	<b>【全体計画】</b> 河川延長 L=約3.1km 目標流量：450m <sup>3</sup> /s (1/100年確率 時間雨量77.7ミリ) 250m <sup>3</sup> /s (1/10年確率 時間雨量51.9ミリ) 護岸工:3.1km、道路橋8橋、堰5基			
	事業費	全体事業費：約54億円(約54億円)      うち投資済事業費：約27億円(約21億円) (内訳)調査費約4億円(約4億円)      (内訳)調査費約1億円(約1億円) 用地費約22億円(約22億円)      用地費約9億円(約6億円) 工事費約28億円(約28億円)      工事費約17億円(約14億円)			
	( )内の数値は前回評価時点のもの	【事業費の変動理由】	【工事費の内訳】		
		変更なし	護岸工 約20億円      道路橋 約7億円 堰 約1億円		
	事業費の変動要因	<b>【他事業者との協議状況】</b> 橋梁架け替えについては、橋梁管理者と適宜協議を実施。 <b>【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】</b> 橋梁管理者との協議内容により事業費の変動の可能性がある。 <b>【計画変更の予定】</b> 特になし			
	維持管理費	約27百万円/年(実績等に基づく算定)			
上位計画	大和川水系石川7'07河川整備計画(H21策定予定) 「大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版」(H17.3)				
関連事業	柏原駒ヶ谷千早赤阪線(山城バイパス道路改良事業) ・現在より上流区間にて事業計画の協議を行う予定。				
事業の進捗状況	経過	事前評価時点(S55)	再評価時点(H15)	再々評価時点(H20)	分析
	事業採択年度	S55	S55	S55	・改修事業については概ね順調に進んでいる。
	事業着工年度	S56	S56	S56	
	完成予定年度	H32	H32	H32	
	進捗状況	全体計画 整備延長(1/100年確率) L=3.1km 整備延長(1/10年確率) L=3.1km	用地 23% <10350 m <sup>2</sup> /45000 m <sup>2</sup> > 工事 50% 整備済延長(1/100年確率) L=0km(0%) 整備済延長(1/10年確率) L=1.7km(55%)	用地 28% <12600 m <sup>2</sup> /45000 m <sup>2</sup> > 工事 61% 整備済延長(1/100年確率) L=0km(0%) 整備済延長(1/10年確率) L=2.2km(71%)	改修箇所から氾濫防止が図れる。
今後の事業進捗の見通し	全体計画に従い、1/100年確率の大雨による洪水を安全に流下できるよう改修を進める。ただし、整備にあたっては段階的に進めるものとし、当面は、1/10年確率の大雨による洪水を安全に流下できるよう改修を先行させる。 <b>【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】</b> 特になし。				

事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
	河川改修事業 ・想定氾濫区域 380ha ・浸水戸数 400戸	河川改修事業 ・想定氾濫区域 179ha ・浸水戸数 1501戸	河川改修事業 ・想定氾濫区域 89ha ・浸水戸数 545戸	想定氾濫区域の見直しにより浸水世帯数が減じた。
事業を巡る社会情勢の変化	・団体交渉による用地取得も地元の協力の元順調に進んでいる。	同左	・同左	・おおむね順調に推移している。
地元等の協力体制				

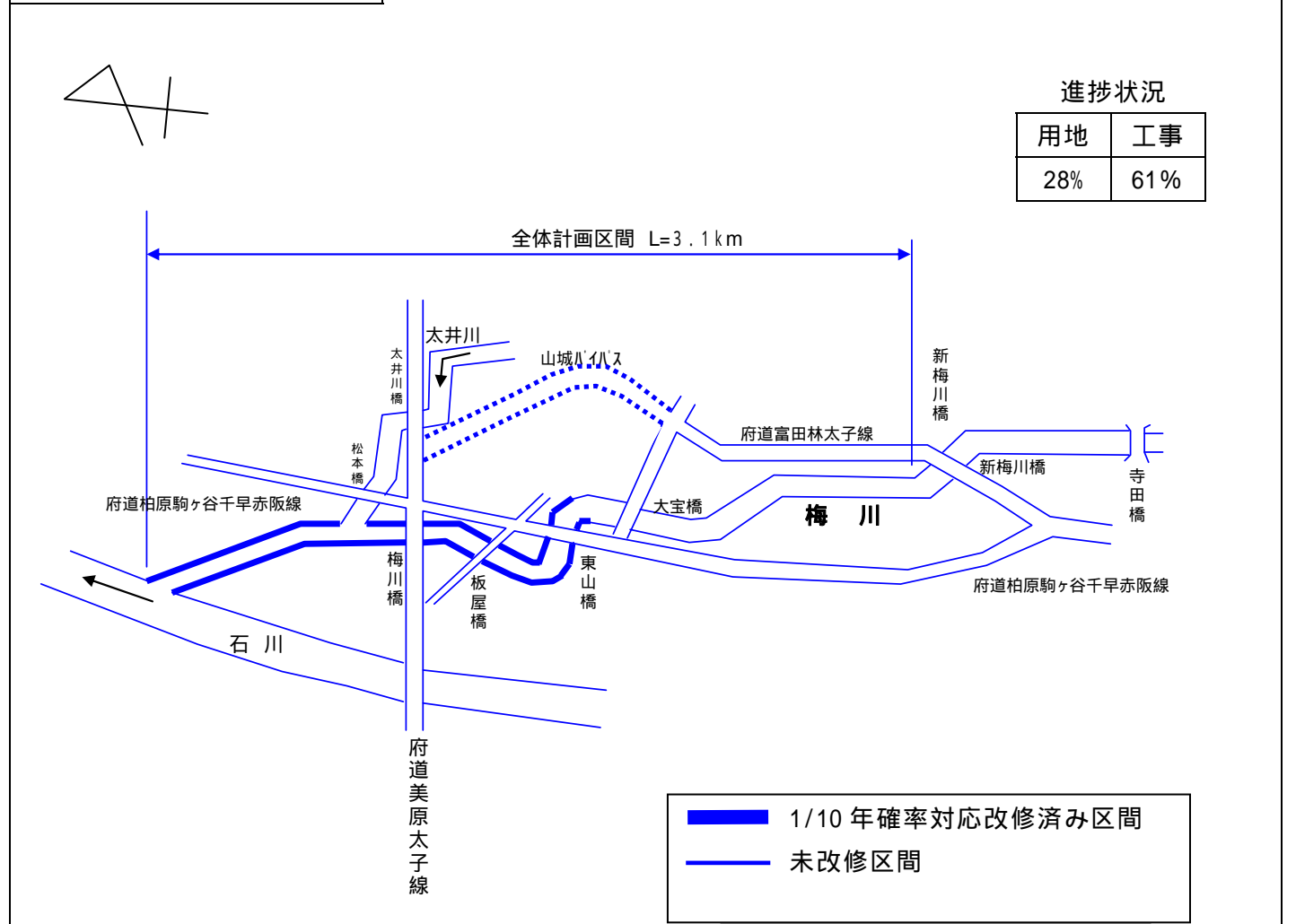
	計画時点での想定		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析
		備考			
事業効果の分析	費用便益分析	下記、代替指標による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 12.49</li> <li>便益総額 B = 647.3億円</li> <li>総費用 C = 67.7億円</li> <li>・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成12年5月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ B / C = 6.75</li> <li>便益総額 B = 372.9億円 浸水被害軽減便益 372.9億円</li> <li>総費用 C = 55.2億円 建設費 48.2億円 維持管理費 7億円</li> <li>・ 費用便益算定の根拠： 治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月</li> </ul>	B/Cが前回評価時に比べ低下したのは想定氾濫区域の精査に伴い想定氾濫区域及び浸水戸数が減じたため。
	その他の指標(代替指標)	C / B = 22.1 年平均被害軽減額 B = 1.2億円 総事業費 C = 26.8億円	便益内容：資産被害抑止効果 受益者：周辺住民、農業従事者 事業効果算定の根拠：治水経済要綱		
	定性的分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水被害の軽減(生命・財産) 河川改修により、治水安全度が向上し、府民の生命・財産を守る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浸水被害の軽減(生命・財産) 河川改修により、治水安全度が向上し、府民の生命・財産を守る。</li> <li>・ 交流拠点の形成(良好な水辺空間) 周辺に大学及び阪南ネオポリスがあり梅川は常に周辺住民の目に触れる水辺空間である。今後河川整備を行い、新たな憩いの空間を形成する。</li> <li>・ 景観(周辺住民と調和した水辺景観) 自然環境に重視した改修を行うことにより視覚的に安らぎを与える水辺環境を確保する。</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成9年の河川法改正により治水・利水に加え環境に配慮した河川整備を目標としている。</li> <li>・ 改修事業の実地区間では治水安全度が向上している。</li> <li>・ 植生の復元を考慮した護岸構造としたことにより改修済み区間では植生の復元が見られ、周辺景観と調和してきている。</li> </ul>
自然環境等への影響と対策	記載なし		(影響)・河床改修は、現況河道の拡幅及び河床掘削により行われる。工事に伴い、現況植生は失われることになる。また、魚類、底生動物についても瀬及び淵が一時的に失われることとなる。 (対策)・改修前の環境に近づけるため自然に配慮した護岸構造とする	同左	
その他特記すべき事項				河川の水位情報、浸水想定区域公表。	
前回評価時の意見具申・府の対応方針の概要	<b>【意見具申】</b>  <b>【府の対応方針】</b>		<b>【意見具申】</b> 本事業については、「事業実施は妥当」とであると判断する。  <b>【府の対応方針】</b> 『事業実施』とする。	(前回評価に対する具体的な取組み)引き続き事業の進捗に努める。	

一級河川梅川 河川改修事業概要図

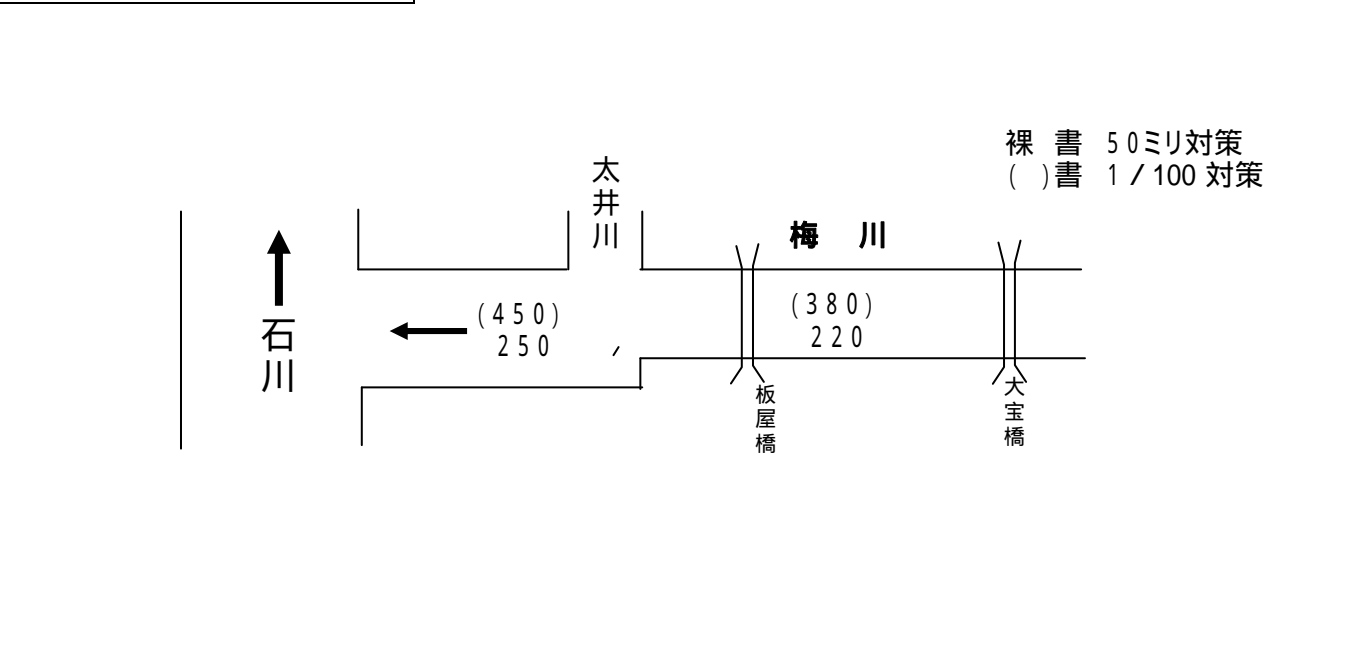
事業箇所図



平面図



流量配分図



標準断面図

